

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和元年 7月 16日

事業所名 総合療育センター にこにこ通園

		チェック項目	はい いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等のスペースとの関係で適切である	○	室内の広さに応じて環境設定を工夫し、子どもの活動のスペースの確保に努めている。	環境設定の工夫を継続する
	②	職員配置数は適切である	○	保育士数は適正配置 更に看護師、リハビリスタッフが保育活動に参加している	今後も継続する
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○	・必要に応じて視覚的にわかりやすく文字や絵で表示している ・新棟への移転の際は、通園場所の他、当センター全体の見学を行った	・途中入園の方にも、通園以外の外来、リハビリ室等必要な場所の見学や案内を実施する ・情報等クラスや保護者控室、ホールに掲示している
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○	・毎日、保育室の消毒や清掃、整理整頓を実施 ・環境クロスによる玩具や遊具の消毒を実施 ・クラスの状況に合わせ、マットを引き安全面に配慮を行なう	今後も継続する
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○	・業務分担のマニュアル化 クラス運営や行事、業務等昨年度の反省を踏まえ、計画、実施、見直しを行い、マニュアルの修正を行なう	今後もPDCAサイクルを継続する
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○	・毎年アンケートを実施し、保護者の意向を把握 ・業務改善を行うため、集計した内容を検討する ・個人懇談の中でも、要望等確認している	・今後もアンケート結果をもとに業務改善を行い、運営に活かしていく ・懇談、モニタリングの継続
	⑦	事業所向けの自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所としての自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○	・保護者向け評価表の結果を基に、保護者の意向を把握し、自己評価を行う ・改善できることを検討し、改善内容を周知する	ホームページに掲載を行なった。また保護者控室等に書面でも、開示している
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	・平成19年に受けている ・市の監査、実地指導の中で業務改善につなげている	・第三者評価の項目で、自己評価を行い、課題や改善点の確認を行う ・職員への周知徹底を行う
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○	・センター全体だけでなく指導科内の研修や毎月の通園内勉強会でスキルアップを図っている ・計画的に外部研修への参加を行なっている	・伝達研修を計画的に行なう ・自主研修等も積極的に参加している
	⑩	アセスメントを適切に行ない、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○	・理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、心理士が評価を行い、多職種でカンファレンスを実施、その後児童発達支援管理責任者の指導のもと支援計画を作成している	6ヶ月で達成でき、より具体的な目標を提示し、保護者と共有できる個別支援計画にする
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○	・遠城寺式乳幼児分析的発達検査表やボーテージ早期教育プログラムを参考 ・各リハビリスタッフが評価を行なっている。心理士は個々に合わせたツールを使用。	全職員がそれぞれのアセスメントツールの理解について研修が必要である
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○	・カンファレンスやミーティングにおいて設定した課題と方針を踏まえ、具体的な支援内容の設定に努めている	・支援内容は実施しているが、家族へより理解を促すための表記工夫が必要である ・現在、個別支援計画の項目の見直しを実行
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○	個別支援計画に沿った月の目標を立て支援し、半年に一度達成度を確認している	・個別支援計画の目標を保育活動へ般化する方法の検討 ・支援方法を伝える技術の研鑽が必要
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行なっている	○	クラス担任及び関係スタッフ間で月案の内容や季節に合ったものを検討している	今後もクラスごとの年間計画や月案を計画的に立案し、園長からの助言・指導をうけ内容の充実を図る

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
支援の提供	⑯	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		クラスごとに年間カリキュラムを作成し、それに基づいた月案を計画。また子どもの発達に合わせてプログラムの導入や内容をその都度検討、確認を行っている	活動のバリエーションを広げるためにも、自己研鑽や保育士間同士で勉強会の実施を行う
	⑰	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		・集団の中で子どもの状態をその都度確認して個別対応を行っている ・リハビリスタッフからの個別の関わりを行っている	・今後も目標にそった活動の提供を継続
	⑱	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		活動前に保育士とリハビリスタッフで活動内容や役割を確認する時間を設けている	今後も継続しながら、個別の目標にあった支援の方法をリハビリスタッフと共に理解をすすめ、個別と集団のプログラムを提供
	⑲	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・担任間で、親子の様子で気になる点を共有する ・保護者からの情報等詳細を記録する ・看護師やセラピストと振り返りを行う	今後も継続する
	⑳	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録は欠かさず、支援の検証・改善を常に心がける	今後も継続する
	㉑	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月ごとに実施している	今後も継続する
	㉒	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達管理者と担任や看護師、必要時リハビリスタッフが参加している	今後も継続する
	㉓	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要時、ドクターや保健師、相談支援専門員と連携や情報交換を行っている	今後も必要時連携を継続する
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要時個々に応じてコーディネーターや相談支援専門員を含め関係機関との連携会議に出席し、電話連絡を行っている ・当センターの主治医や看護師が調整し、医療情報の提供や、サポートブックを作成し、緊急時等の対応について確認する等連絡体制を整えている	今後も継続する
	㉕	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・見学の受け入れや電話等情報交換を行っている ・通園添書及びサポートブックを作成し、引継ぎを行う	必要なケースについては、担当者会議を実施
関係機関や保護者との連携	㉖	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・通園添書及びサポートブックを作成し、引継ぎを行う ・学校職員の見学やビデオ撮影、保護者の要望などにより情報共有や相互理解を図る	今後も継続する
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・他機関に対し、学術集会や療育研修報告会の案内を行う ・サービス担当者会議に参加している	他機関の施設の機能について、情報収集に努め、利用者へのサービスにつなげていく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任	(28)	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		<ul style="list-style-type: none"> ・クラスによって、保護者の希望を確認しながら地域の保育所と交流保育を実施している。 ・また交流保育の日だけに限らず、園庭を開設していただき訪問することができた。 	交流保育以外でも、地域で参加できる場の検討。
	(29)	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	現在参加していない	当センター内の他部署が参加しているため、情報収集に努める
	(30)	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・親子通園のため、その場で確認を行ったり、連絡ノートを活用して説明している ・単独通園の日は送迎時に情報収集や共有を行っている。 	今後も継続する
	(31)	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアント・トレーニング等）の支援を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での支援・対応方法など保育場面で具体的に説明、実践し、家庭内で般化できるようにしている ・保護者講座の実施 ・個別での対応実施 	ケース勉強会を行うことで内容の充実を図る
	(32)	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・運営規定を自由に閲覧できるようにしている ・利用者負担等は文書を渡し、園長や医事職員が個別に説明を行っている 	入園オリエンテーション時に、より丁寧な説明を今後も継続し、閲覧可能なこともインフォメーションしていく
	(33)	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・懇談の際、個別支援計画を提示し、説明し同意を得ている ・ガイドラインに沿った説明の仕方を意識し、より理解を求めやすいよう努力している 	個別支援計画の項目の見直し、ガイドラインに沿って説明できるよう、職員の研修が必要
	(34)	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		親子通園のため日常的に相談できる環境であり、連絡ノートでのやり取りを行っている	今後も継続する
	(35)	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・現在父母の会はないが親子通園の中で保護者同士の連携や交流が取れるよう場を設けている ・保護者のみで昼食の時間を設けている 	保護者同士の連携が取りやすい工夫をしており、更に、行事の目的を説明し、意見の集約を行うことが必要
	(36)	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・相談申し込みの際は、担任や園長が対応しており、迅速に対応するよう心がけている ・投書箱の設置と案内 ・職員間の速やかな情報共有に努めている 	相談しやすい環境作りや今後も迅速な対応に努める
	(37)	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月「園だより」を発行している ・肢体力学クラスは月の活動内容を掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用 ・今後も継続する
事業所の運営責任	(38)	個人情報の取扱いに十分注意している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・行動規範チェックリストをつけ、事業所全体で確認を実施する ・通園内の写真可否について保護者への確認 ・実習生には守秘義務の徹底を文書で取り交わしている 	今後も継続する
	(39)	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に分かりやすく表示したり、平仮名や平易な言葉での対応を行っている ・静養室など話しやすい環境を整え案内を行った 	今後も継続する
	(40)	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		当センター全体で「あだちまつり」を開催している	今後も継続する

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	(41)	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		<ul style="list-style-type: none"> 当センター内で、マニュアルを作成し、各部署に配置している 水害、防犯、地震等は年に数回実施 	保護者への周知を行うことが必要
	(42)	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> 火災訓練は毎月実施している 	今後も継続する
	(43)	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		<ul style="list-style-type: none"> 入園前の面接やアセスメント表にて、担任・看護師が確認している サポートブックを作成している 	今後も継続する
	(44)	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		<ul style="list-style-type: none"> 医師の診断書をもとに対応 入園前の面接やアセスメント表にて、園長・看護師・担任・栄養士が確認している 	今後も継続する
	(45)	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		<ul style="list-style-type: none"> 通園内では、毎日報告をし情報の共有を図っている 月1回リスクマネージメント委員会を開き、報告を行うとともに、議事録を回覧し職員全員に周知を図っている 	センター全体の事例は月毎に回覧しており、通園内での事例はファイルし振り返りができるよう保管されている
	(46)	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		<ul style="list-style-type: none"> 人権を含め、センター内で職場研修を実施している 行動規範チェックリストをつけ自己評価を行い、職員間で意見交換を行っている 	今後も継続する
	(47)	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		<ul style="list-style-type: none"> 同意書を作成し保護者からの同意をいただいている。また個人ごとに記録を行い、支援会議等で見直しを行っている 身体拘束についてのマニュアル等の回覧を職員間で行い周知徹底を行っている 	今後も継続する

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。